

いきものひゃくようばご特別プロジェクト－赤とんぼ調査集計報告－
2011年秋季 県内の赤とんぼは多かったのか少なかったのか

福井県自然保護センター

◆ はじめに

2011年、勝山市は、身近な自然環境の生物多様性を測るものさしとして、赤とんぼに着目し、「赤とんぼと共に生きるプロジェクト」を始めました。日本人にとって最も身近に秋を感じることができる「赤とんぼ」に着目することは、県内の里地里山の生物多様性を見直す機会を広く提供する上で、たいへん意義深いことです。そこで自然保護センターでは、このプロジェクトと協働し、県が実施している生き物百葉箱に登録している皆さんや自然関係団体などに呼びかけ、赤とんぼの福井県内の出現状況を調べていただきました。

◆ 方 法

赤とんぼが里地里山で見られるようになる秋季に、ゆっくりと一定の距離を歩き、見かけた赤とんぼの数をカウントし、調査した距離とカウントした数を所定の調査用紙に記入して報告しました。この時、赤とんぼの種の識別が可能な場合には、種ごとのカウント数を報告します。報告されたカウント数は、調査距離 100m に換算して比較しました。

◆ 調査期間

- ・2011年9月から11月（実際に報告があった期間は9月11日から11月8日）

◆ 報告状況

・ 報告件数

167件 ※赤とんぼとしての報告数15件やカウント数の報告がないものも含む

・ 確認された種と報告件数

アキアカネ(70件)、ナツアカネ(35件)、ノシメトンボ(32件)、マユタテアカネ(8件)、リスアカネ(3件)、ネキトンボ(3件)、キトンボ(1件) 合計152件

・ 調査した市町と報告件数

福井市(9件)、あわら市(10件)、坂井市(1件)、勝山市(9件)、大野市(75件)、越前市(11件)、鯖江市(2件)、池田町(1件)、越前町(10件)、敦賀市(7件)、美浜町(30件)、若狭町(2件) 合計167件

◆ カウント結果

○ カウント数が多かった地点

- ・ 第1位：100頭(大野市塚原)
- ・ 第2位：75頭(越前町佐々生)
- ・ 第3位：58頭(大野市南六呂師)

※ 比較の際の前提条件

調査距離は100m以上、アキアカネもしくは赤とんぼとして報告されたカウント数を100mに換算して比較

○ カウント数が少なかった地点

0頭(越前市中野町)、0.3頭(敦賀市中池見湿地)、1頭(越前市都辺町)、1頭(越前町織田)など

※カウント数が少なかったのが、一時的なものか、それとも秋季を通じて少ないのかについて、調査をしていく必要があると思われます。

○ 地域別の赤とんぼのカウント比較

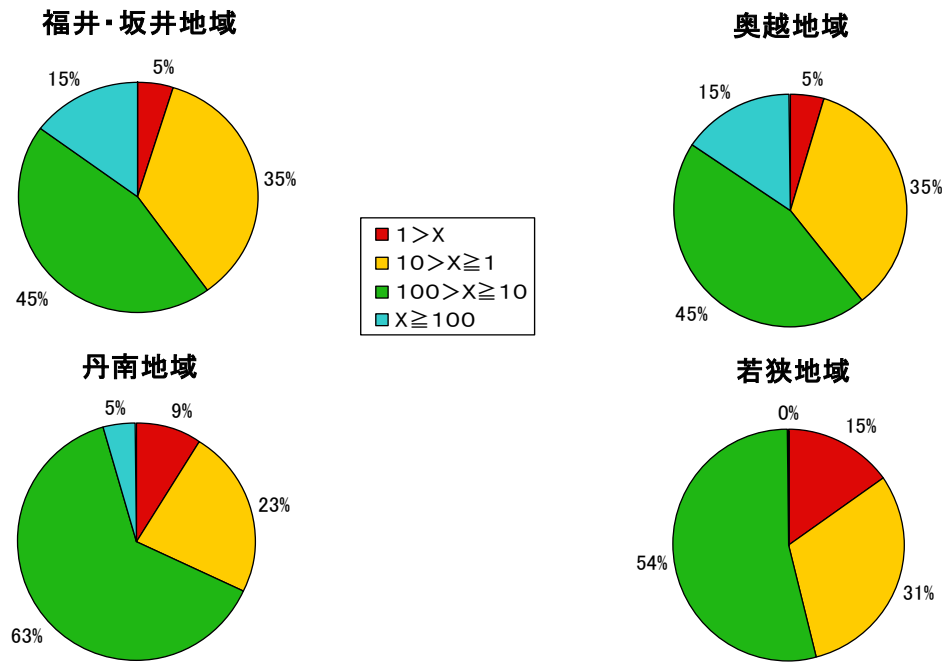


図 1. 地域別の赤とんぼ生息密度の比較 (生息密度は個体数/100mに換算して算出)

県内ではどの地域においても、赤とんぼが2桁カウントされた地点が多くありました。赤とんぼネットワークが全国で行ったアカトンボセンサス2007(上田哲行, 2008, Symnet No.10)によれば、1頭未満が81%、1頭以上10頭未満が17%、10頭以上が3%であったことから、福井の赤とんぼの多さは際立っていることがわかります。つまり、福井の生息数は、全体として良好な状態を維持していると考えられます。

◆ 課題

今回の調査結果を、地域別、調査距離別に分けて、100mあたりの調査距離に換算してみました。すると、調査距離が長くなると、生息密度が低下していることがわかりました(表1)。これは、赤とんぼを見つけてから調査するために、赤とんぼがない場所のカウントがされず、カウント結果が、現状を過大に評価していることを示すものです。今後は、調査距離を最低100m以上で設定した方がよいと思われます。

表1. 2011年の赤とんぼ類(アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボ)の地域別、調査距離別の平均生息密度の比較

	調査距離	アキアカネ			ナツアカネ			ノシメトンボ		
		10m以上	50m以上	100m以上	10m以上	50m以上	100m以上	10m以上	50m以上	100m以上
地域	福井・坂井地区	34.2	14.5	3.5	26.4	7.3	8.0	—	—	—
	奥越地区	48.2	29.6	17.4	5.6	3.9	2.7	9.1	5.5	2.9
	丹南地区	32.3	31.1	30.3	—	—	—	—	—	—
	嶺南地区	27.7	—	27.7	12.5	—	12.5	3.1	—	3.1

※生息密度は、個体数/100mに換算して算出。

<謝辞> 調査方法やとりまとめは、上田哲行教授(石川県立大学)のご指導をいただきました。また、調査は以下の皆様や団体のご協力により実施されました。ありがとうございました。
池田町農業公社、組頭五十夫、坂本均、佐藤外紀子、城山エコミュージアム実行委員会、鈴川文夫、高木利之、敦賀気比高等学校附属中学校7,8班、徳丸健一(中番環境を守る会)、野村みゆき(坂口エコメイト)、福田健、福村卓也、増田茂、松井明彦、松村隼生、柳町邦光、山田忠生(オ他地域コミュニティー運営委員会環境部会)、矢村健一 順不同
文責 松村俊幸(現所属:福井県海浜自然センター)